薬連ハイライト

全国薬剤師フォーラム開催される

令和３年４月18日（日）12時30分より「つなごう！！薬剤師議員 全国薬剤師フォーラム」が開催された。本来は昨年度に対面で開催すべく計画されていたが，新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から今期に延期され，その状況が改善されないことから，やむなくWEBでの開催となった。

今回は「コロナに打ち勝つ名簿収集」というテーマで山本会長の開会挨拶で始まり，ご来賓の藤井基之参議院議員，本田顕子参議院議員より祝辞をいただいた。

続いて神谷まさゆき副会長から，全国キャラバンでお世話になったことのお礼を含めての活動報告と決意表明がなされた。次に本フォーラム担当の大原常任総務より主旨説明がなされた後，前回の第25回参議院選挙の総括より，名簿収集と得票の相関について鳥海副会長より基調講演が行われた。

その講演を受けて47都道府県の参加者が，６つの班に分かれ，スモールグループディスカッションが始まった。途中，山本会長，神谷副会長がそれぞれのグループを訪問し質問に答えたり，助言を行った。普段話す機会がないことから参加者にとって大きな刺激となった。

120分の議論が終了後，休憩をはさみグループ発表が行われ，議論の成果が報告された。その報告を元に大原常任総務が取りまとめた後，荻野副会長より総括が行われ，これからの後援会活動に更なるご尽力を賜りたいと締めくくった。大澤副会長の閉会の挨拶の後，頑張るぞコールがスクリーンショットで撮影され終了となった。

もとゆき便り

厚生労働委員会の質疑

情報監視審査会会長
参議院議員・薬剤師
藤井 基之

４月20日の参議院厚生労働委員会において，今国会で初めての質疑を行いました。

先ず，新型コロナウイルスワクチンの開発状況について，欧米等のワクチン開発に比べて，国産のワクチン開発が遅れた要因は，平時からのパンデミック等の非常事態に備えた対応の不足等，種々指摘されているところです。

国内においては，組換えタンパクワクチン，mRNAワクチン，DNAワクチン，不活化ワクチン等の多様な製品開発が進められています。当初の開発は出遅れたものの，ワクチンの国内開発，国内製造をしていくことは，感染症対策はもとより，安全保障上の観点からも重要な意義を持つものです。今後のワクチン開発に当たっては，安全性やコストの面でより優れた製品を開発していくことも十分に踏まえ，積極的な支援を行うよう要請しました。

次に，ワクチンの供給，接種について，感染者の急増や変異株による感染割合の増加等，国民の不安は拡がり，一刻も早いワクチン接種を待ち望んでいます。承認申請中の２社のワクチンについて，早急に審査を進めるのは当然のこと，国民に対して承認見込みや審査状況等を十分に説明する必要があることを指摘しました。

持ち時間が限られ，十分なやり取りが出来ませんでした。積み残しは次の機会にと思います。

オレンジ日記

５月５日は薬の日

自民党厚生労働部会副部会長
参議院議員・薬剤師
本田 顕子

以前，私が奈良県製薬協同組合を訪問した際，「奈良のくすり」というパンフレットに“薬狩り”の記述を見つけました。女帝である推古天皇が即位した際，皇太子が，それまでの獣狩りの武技に代わり，中国の風習にならって薬狩りをするように進言し，現在の奈良県大宇陀地方で薬狩りをされたという記述でした。

さらに，日本最古の薬狩りの記録として，推古19年（611年）５月の端午の節句の日に，狩りの装束をまとい，野や山にでかけて薬草を採取したと「日本書紀」に記載されていると記述されていました。そして，これをモチーフにして，薬狩りの壁画が昭和18年（1943年）に作成され，私の母校，星薬科大学に所蔵されているのです。

インターネットで“５月５日は薬の日”で検索してみると薬狩りの記述に辿り着くことができます。こどもの日に，子供の健やかな成長を願って菖蒲湯に入ることも薬狩りの名残であるとわかります。

身近な薬草やその他の天然物を利用し，様々な知識・経験が蓄積され，薬草が民間薬となっていった薬の歴史は興味深く，そうした歴史の延長が今の私たち薬剤師に引き継がれているのだと思います。

今は長引くコロナ禍との戦いが続いています。身近な大切な人の命を守るために，私たち薬剤師にできる知識と経験を一人でも多くの方に届けてあげられるように頑張っていきたいですね。